

高等学校学習評価Q&A

芸術科（書道）



教
学
一
如
女

教えることは学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

本資料においては、以下の資料について、それぞれ略称を用いることとします。

「改善等通知」：「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」平成31年3月29日 初等中等教育局長通知

「参考資料」：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校芸術（書道）】
文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「学習評価のハンドブック」：学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）令和元年6月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「指導資料」：鹿児島県総合教育センターが学校における課題や教科等の指導に関する今日的課題などについて研究した成果をまとめた資料

高等学校学習評価Q & Aについて

平成30年3月に公示された学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価について、基本的な考え方や高等学校の教科等別に評価規準の作成のポイントをまとめています。

高等学校学習評価Q&Aは、「指導と評価の一体化」について、先生方に分かりやすくガイドするために、以下のような工夫をしています。

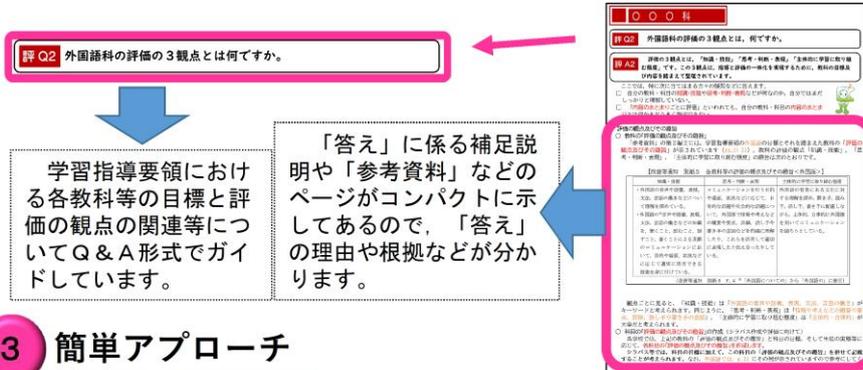


1 大事なポイントをガイド

学習指導要領解説を踏まえ、「参考資料」に基づいて作成しているので、各教科等の学習評価を行う上で大事なポイントが分かります。

2 Q&A

先生方が理解したり、自己点検したりできるように、各教科等の目標や単元（題材）の目標に照らした評価規準の作成の手順や評価における留意点、キーワードを示すなど、重要なポイントを焦点化しています。



3 簡単アプローチ

教科等ごとに必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。「指導と評価の一体化」を図り、生徒の資質・能力の確実な育成に資するために、日々の授業改善や評価の改善に役立ててください。

※ 本資料では、ページ数のみが書かれている時には、「参考資料」の該当するページを意味しています。

目 次

| | | |
|------------|---|---|
| 評Q1 | 高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。 | 1 |
| 評Q2 | 芸術科（書道）の評価の3観点とは、何ですか。 | 2 |
| 評Q3 | 芸術科（書道）の評価の進め方はどのようにすればよいですか。 | 4 |
| 評Q4 | 評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。 | 7 |

芸術科（書道）（共通）

評 Q1

高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。

評 A1

学習指導要領の目標及び内容が、資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科等の評価の観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理され、それに伴い観点別学習状況の評価の考え方も変わりました。

教師が生徒の学習状況を的確に捉え、授業改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために「学習評価の在り方」が極めて重要です。以下に具体的なポイントについて示します。

学習評価の改善・充実に向けたチェックポイント（□にチェックを入れてみましょう。）

- 学習評価は何のために行うものなのかを理解している。
- 「改善等通知」で示された学習評価の改善の基本的な方向性を理解している。
- 指導要録の「各教科・科目等の学習の記録」に、観点別学習状況の記載欄が設けられたことを理解している。
- 観点別学習状況の評価の観点が3観点到整理して示されたこと、また、それぞれの観点で評価する内容を理解している。
- 観点別学習状況の評価と評定の両方について、目標に準拠した評価として実施することを理解している。
- 評定については、観点別学習状況の評価がその基本的な要素となることを理解している。
- 評価の総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得る準備ができています。
- 観点別学習状況の評価や評定を的確に行うために取り組むべきことを理解している。
- 指導と評価の一体化を実現することや観点別学習状況の評価の充実と質の向上を図ることの重要性について理解している。
- 生徒にこれからの時代に求められる資質・能力を確実に育成するために、授業改善及び学習評価の改善・充実に向けて、主体的に実践と探究を進めていこうとしている。

学習評価の改善・充実に向けて、より理解を深めるために、以下の「指導資料」で御確認ください。

「指導資料」 令和2年10月発行
学習評価 第1号「高等学校に
おける学習評価の改善・充実に
向けて」



<https://bit.ly/3PzmJAV>

【学習評価第1号】

「指導資料」 令和3年10月発行
学習評価 第2号「高等学校に
おける学習評価の改善・充実に
向けてⅡ」



<https://bit.ly/3LI9kDn>

【学習評価第2号】

併せて以下の動画（30分）の解説、パワーポイント資料等も御活用ください。

鹿児島県総合教育センターWeb ページ
「教育資料」内の「学習評価」の
学習評価の基本的な考え方
高等学校 学習評価について



<https://bit.ly/3lvrBtf>

「指導と評価の一体化」のため
の学習評価に関する参考資料
第1編 総説



【国立教育政策研究所教育課程研究センター】

<https://bit.ly/3ktMiFi>

芸術科（書道）

評 Q2 芸術科（書道）の評価の3観点とは、何ですか。

評 A2 評価の3観点とは、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」です。この3観点は、「指導と評価の一体化」を実現するために、教科の目標及び内容を踏まえて整理されています。

ここでは、次の疑問などに答えます。

- 芸術科（書道）の**知識・技能**や**思考・判断・表現**とは、どういうものだろうか。
- 「**内容のまとめ**りごとに評価」するための芸術科（書道）の**内容のまとめ**りとはどのようなものだろうか。



1 評価の観点及びその趣旨

○ 教科の「評価の観点及びその趣旨」

「参考資料」の第2編2には、学習指導要領の芸術科の目標とそれを踏まえた芸術科（書道）の「**評価の観点及びその趣旨**」が示されています（p.30）。芸術科（書道）の評価の観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の趣旨は次のとおりです。

【「改善等通知」 別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨＜芸術科（書道）＞】

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 | 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意義や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。 | 書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 |

(改善等通知 別紙5 P. 3, 4)

評価の観点において、「知識・技能」は「書の表現の方法や形式、書表現の多様性への理解を深める知識」と「効果的・創造的に表す技能」の二つに分けて示されています。一方、「思考・判断・表現」は「A表現」において育成する構想や表現の工夫に関する資質・能力と「B鑑賞」において育成する鑑賞に関する資質・能力とに整理されていますが、構想や表現の工夫と鑑賞の双方に重なる資質・能力の育成を重視していることからまとめて示されています（p.31）。

○ 科目の「評価の観点及びその趣旨」の作成（シラバス作成や評価に向けて）

各学校では、上記の教科の「評価の観点及びその趣旨」と科目の目標、そして生徒の実態等に応じて、**各科目の「評価の観点及びその趣旨」を作成します。**

シラバス等では、科目の目標に加えて、この科目の「評価の観点及びその趣旨」を併せて記載することが考えられます。なお、芸術科（書道）では、p.31 にその例が示されていますので参考にしてください。

2 「内容のまとめり」

1で示した評価の3観点は、「内容のまとめり」ごとに評価します。「内容のまとめり」とは、「学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたもの」とされています（「参考資料」第1編第2章のpp.15-16参照）。

芸術科（書道）の場合、「内容のまとめり」とは、書道Ⅰを例にあげると以下のようになります。

第10 書道Ⅰ

「A表現」(1) 漢字仮名交じりの書 及び [共通事項] (1)

「A表現」(2) 漢字の書 及び [共通事項] (1)

「A表現」(3) 仮名の書 及び [共通事項] (1)

「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び [共通事項] (1)

第11 書道Ⅱ、第12 書道Ⅲにおいても、同様の「内容のまとめり」となっています。

「参考資料」には、「内容のまとめり」について、簡潔に次の3点が示されています。それぞれ参照してください。

- 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係（第2編2①（p.32））
- 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際のポイント（第2編2②(1)（pp.33-34））
- 「内容のまとめりごとの評価規準（例）」（第2編2②(2)（pp.35-36））

「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係とは、「書道Ⅰ」における「漢字仮名交じりの書」を例にすると以下のようになります。

「A表現」

(1) 漢字仮名交じりの書

漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(イ)までについて構想し工夫すること。

(ア) 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成

(イ) 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現

イ 名筆を生かした表現や現代に生きる表現

エ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり

(イ) 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 目的や用途に即した効果的な表現

(イ) 漢字と仮名の調和した線質による表現

〔共通事項〕

表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。

イ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。

（実線） …「知識及び技能」のうちの「知識」に関する内容

（二重線） …「知識及び技能」のうちの「技能」に関する内容

（波線） …「思考力、判断力、表現力等」に関する内容

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順
【国立教育政策研究所教育課程センター】

<https://bit.ly/38DE5f4>



芸術科（書道）

評 Q3 芸術科（書道）の評価の進め方はどのようにすればよいですか。

評 A3 芸術科（書道）における評価の進め方は、「参考資料」第3編第1章1（p.45）に次のように示されています。

- 1 単元の目標を作成する。
- 2 単元の評価規準を作成する。
- 3 「指導と評価の計画」を作成する。
- 4 授業を行う。
- 5 観点ごとに総括する。



【第3編第1章～】

<https://bit.ly/38DE5f4>

ここはよく理解する必要があるので、ぜひ「参考資料」の冊子又は二次元コードからの「参考資料」のデータをお読みください。

ここでは、次に当てはまる先生方の疑問や要望などに答えます。

- 単元の評価規準の設定から評価の総括までの流れなど、「参考資料」の事例を参考にしたいが、何がどこに書いてあるか分からない。
- 評価の場面は、授業の観察、ペーパーテスト、プレゼンテーション等があるが、それぞれの場面での3観点を評価する方法や課題の設定の工夫など、まだしっかりと理解していない。
- 「指導と評価の計画」を学年で共通理解したり、学習指導案を作成したりするために、「参考資料」の事例を参考にしたい。



1 単元の評価規準の作成

「参考資料」第3編第1章2（pp.46-48）は「単元の評価規準の作成のポイント」です。単元の評価規準の作成及び評価のポイントが書かれています。

| | |
|---------------|--|
| 知識・技能 | <p>「知識」に関する観点は、用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書の表現と用筆・運筆との関わりについての理解や、作品や書のよさや美しさを味わって捉えることについての理解に関して評価するものであり、内容の「A表現」、「B鑑賞」及び〔共通事項〕のすべてに関わる観点である。</p> <p>「技能」に関する観点は、書の美を表現することを目指し、自らの表現の意図に基づいて構想し、構想を実現するために表現を工夫する上で必要となる技能を対象とし、臨書活動や創作活動を通して身に付けられるものである。そして、書の伝統に基づいて効果的に表したり、古典の特徴等の書の伝統を生かしながら自らで生成した表現の意図に基づいて効果的に表したりする技能に関する資質・能力を評価するものであり、「A表現」にのみ関わる観点である。</p> |
| 思考・判断・表現 | <p>「思考・判断・表現」の観点は、「A表現」では、書の美を表現することを目指し、自らの意図に基づいて構想し、その実現のために表現を工夫したり、「B鑑賞」では、作品や書の伝統と文化の価値を考え、作品や書のよさや美しさを味わって捉えたりすることに関する資質・能力を評価するものである。</p> |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>「主体的に学習に取り組む態度」に関する観点は、「知識及び技能」を身に付けようとしたり、「思考力、判断力、表現力等」を発揮しようとしたことへ向かう主体的な学習に対する態度が評価の対象であり、「A表現」については、自身の活動を振り返り見通しを立てながら試行錯誤を繰り返す、粘り強く取り組もうとしている様子や、作品や書のよさや美しさを感</p> |

受しながら自身の表現の意図に基づいてよりよい表現の実現に向けて構想を練り直し、効果的に表現を工夫しようとしている様子を見取るとともに、「B鑑賞」については、作品や書のよさや美しさを感じながら、見方・考え方を主体的に働かせて、書を構成する要素や表現性、表現効果や風趣等の観点から分析的に捉えようとしたり、作品や書のよさや美しさ、書の伝統と文化の価値について考えたり生活や社会の中での書や文字の意味や価値を見出すことに主体的に取り組もうとしている様子を見取ることが大切である。

2 事例について

「参考資料」の事例には、全教科を通じて次のような特徴があります。

- 単元に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している。
- 観点別学習状況について評価する時期や場面の精選について示している。
- 評価方法の工夫を示している。

○ 芸術科（書道）の事例の概要

芸術科（書道）では、一つの事例が示されています。以下に事例の概要を示します。

- 「書道Ⅰ」における「漢字仮名交じりの書」を3期（第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期）に分けて指導した例であり、取り上げてあるのは第Ⅱ期の指導例である。
- 第Ⅱ期は、「漢字仮名交じりの書」の創作活動であり、全10時間の取り扱いである。

3 総括の方法

総括については、単元などの総括と学期末における総括が考えられます。以下を参照ください。

(1) 単元などの総括

単元などの総括については、事例の最後にその方法や考え方等が示されています。p.78に次の例があります。

| 評価規準 | 知識・技能 | | | 思考・判断・表現 | | | | | | 主体的に学習に取り組む態度 | | | | | |
|--------|-----------------------|------------------|--------------------------------------|-----------------------|---|---|---|----------------------------|---|--|--|--|---|---|--|
| | 知 | | 技 | 思 | | | | | | 態表 | | 態鑑 | | | |
| 主な学習活動 | 観 点 の 確 認 | 意 見 交 換 | 作 品 制 作 （ 作 品 ） | 言 葉 の 選 定 | 構 想 ・ 工 夫 の 見 直 し | 構 想 ・ 工 夫 （ 構 築 ・ 再 構 築 ） | 意 見 交 換 （ 構 想 ・ 工 夫 の 言 語 化 ） | 最 終 自 己 評 価 | 単 元 の 学 習 の ま と め | 構 想 ・ 工 夫 （ 表 現 の 工 夫 ） | 作 品 制 作 （ 取 り 組 む 態 度 ） | 鑑 賞 （ 相 互 鑑 賞 ・ 名 筆 等 鑑 賞 ） | 意 見 交 換 （ 相 互 批 評 ・ 交 流 ） | 単 元 の 学 習 の ま と め | |
| 展開1 | ・ | ・ | ・ | ◎ | | | | | | ・ | ・ | ・ | ・ | | |
| 展開2 | ・ | ・ | ◎ | | ・ | ・ | ・ | | | ◎ | | ・ | ・ | | |
| 展開3 | 記① | | ・ | 記① | | | | | | ・ | ・ | ◎ | | | |
| 展開4 | 記② | | ・ | | ・ | ・ | ・ | | | ・ | ・ | ・ | ・ | | |
| 展開5 | | ・ | 記① | | 記② | | | | | | 記① | | 記① | | |
| 生徒い | B | | A | B | | | | | | A | | A | | | |
| | A | | | | | | | | | A | | | | | |
| 生徒ろ | B | | C | A | | | | | | A | | B | | | |
| | B | | | | | | | | | A | | | | | |
| 生徒は | B | | B | C | | | | | | C | | A | | | |
| | B | | | | | | | | | B | | | | | |

記 記録に残す評価を行う場面 ◎ 指導に生かす評価を重点的に行う場面（例）
 ・ 展開における学習活動の有無（学習状況を適宜見取ることができる。）

(2) 学年末等の観点別学習状況の評価の総括

単元等で評価を行った後に、学期末や学年末等に総括する方法が「参考資料」第1編第2章1(5)(pp.17-18)に書かれています。評価結果のA, B, Cの数を基に総括する場合と評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて総括する場合です。さらに、「参考資料」第1編第2章1(6)には、観点別学習状況の評価を評定へ総括する方法が書かれています(pp.18-19)。こちらも併せてお読みください。

なお、芸術科(書道)の場合は、①単元等での観点別学習状況の評価→②内容のまとめりごとの総括→③学期末・学年末における総括となります。

4 「指導と評価の一体化」の観点を考慮した指導計画について

「指導と評価の一体化」のためには、「指導と評価の計画」の作成が大切です。それが学習指導案作成にもつながります。観点を考慮し、その際には、次の点に留意し、作成してください。

(1) 単元の目標と評価規準を示してから、単元の指導計画や本時の指導計画を掲載する。

「指導と評価の一体化」の観点から、評価規準で示したことについて、生徒が学ぶ機会を設けることがとても重要です。目標について、単元のどの場面で生徒が学ぶのかを明らかにします。

「指導と評価の計画」は、「参考資料」にある事例の形式(pp.64-76など)を参照しましょう。

(2) 観点別学習状況の評価につながる「記録に残す評価」は、全員を対象に行う。

評価には、生徒の目標の達成状況を単元途中で確認する「指導に生かす評価」と主に単元の後半で行う観点別学習状況の評価のための「記録に残す評価」があります。単元目標は単元が終わるまでに達成できればよいので、「記録に残す評価」については、単元の後半に主な評価場面を設けることが一般的です。また、「記録に残す評価」は、全員に対して一斉に行うのが原則です。全員に行うことができない場合には、「記録に残す評価」を行うことは通常はありません。この「記録に残す評価」をいつ、どの場面で行うか、「指導と評価の計画」の中に明記しましょう。

(3) 具体的な目標の達成状況の例を示す。

単元の最初に目標を示す際には、生徒の達成状況の例を具体的に示したいものです。例えば、生徒の作品例や実際に活動を行なっている様子(できれば評価Aの生徒のものと評価Bの生徒のもの)を示すと、生徒は目標とする達成状況までの過程のイメージを得やすくなります。また、教師にとっては、個々の生徒の学習の達成状況を把握しやすくなるので、生徒一人一人への個別の指導につなげることができます。これは、「学習評価のハンドブック」に示されている「教師の指導改善につながるものにしていく」こととなります。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第3編第2章 学習評価に関する事例について

【国立教育政策研究所教育課程センター】

<https://bit.ly/3s7qrYB>



芸術科（書道）（共通）

評 Q4

評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。

評 A4

学習評価については、これまで様々な課題が指摘されてきました。その改善のために、「指導と評価の計画」を作成し、観点別学習状況評価を計画的に進める必要があります。

高等学校及び特別支援学校高等部においては、令和4年度以降に入学する生徒から、観点別学習状況の評価を指導要録に記載することになるなど、各学校においては学習評価の改善・充実が喫緊の課題となっています。現在、当センターにも以下のような学習評価に関する様々な質問が寄せられているところです。

- 自分の担当する教科の3観点がよく分からず不安です。まず何から始めればよいですか。
- 定期考査等のペーパーテストでは、「知識・技能」，「思考・判断・表現」のどちらを測る問題か，明示して出題すべきでしょうか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」のみを取り出して評価できますか。
- これまで「平常点」として評価していたものをそのまま「主体的に学習に取り組む態度」として評価してよいですか。
- 課題の提出状況や小テストの結果は「主体的に学習に取り組む態度」で評価しないのですか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価が「知識・技能」や「思考・判断・表現」の評価と大きな差があることはありますか。
- これまでと同様に「評点」を用いて評定を算出してもよいですか。
- 観点別学習状況の評価「A B B」などを学年末に「評定」へ総括する際に「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」を 1：1：1 ではなく 1：2：1 とするなど3観点で軽重を付けてもよいですか。
- 特別活動，総合的な探究の時間の評価はどのようにすればよいですか。
- 指導要録だけでなく通知表にも観点別学習状況の評価を記載した方がよいですか。
- 観点別学習状況の評価を基にした評定について，生徒や保護者に配布する文書例はありますか。

当センターでは、これらの質問に対する回答を「指導資料」としてまとめています。次の「指導資料」を参照し、学習評価に関して、より理解を深めてください。

「指導資料」 令和3年10月発行
学習評価 第3号
「高等学校における学習評価の改善・充実に向けてⅢ
—よくある質問から—」
<https://bit.ly/3wF7UUZ>



【学習評価第3号】